

INFORMATION

プラネタリウム一般番組

火星・赤い惑星への旅立ち

アメリカのカーネギー科学館が制作した番組の日本語版。人類の火星への挑戦の歴史と、神秘に満ちた火星の素顔を紹介します。

今夜の星空生解説もあります。

12月19日(土)→4月11日(日)

平日 18:00

冬・春休み平日 11:30 15:30

土曜日 11:30 17:30

日祝日 11:30 15:30

星空ライブトーク

今夜見える星や星座、最新の天文ニュースやトピックスなどを当館の天文スタッフが生解説でわかりやすく紹介します。解説の内容は毎月かわります。

土曜日 15:30

日曜日 13:30 (学校休暇期間をのぞく)

冬・春休み平日 18:00

MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

土曜の夜だけの特別プログラム。最新鋭プラネタリウムによる満天の星空と心地よいサウンド、そして宇宙の話題が織りなすファンタジックなひとときをお楽しみください。

土曜日 19:00

1月9・16・30日

2月6・13・27日

3月6・13・20日

■ 料金 (入館料を含みます)

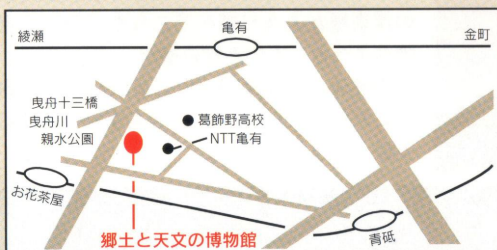
大人400円/小・中学生150円/幼児50円
第2・4土曜日は小・中学生以下無料

■ 休館日・休演日

月曜日(祝日は開館) / 第2・4火曜日
4月14日(水)~16日(金) (番組入替のため)

■ 上映15分前までにご来館ください。

交通のごあんない



■ 京成線『お花茶屋』から8分

■ JR常磐線 [亀有] から25分

■ 京成バス (有57 亀有-奥戸車庫)
[共栄学園] 下車徒歩5分

■ 駐車場に限りがございます。
電車・バスをご利用ください。

インターネット・ホームページ <http://www.obs.misato.wakayama.jp/~katusika/index-j.html>

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

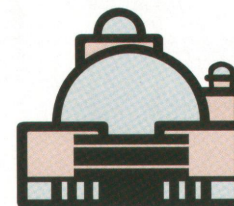
TEL 03(3838)1101



PLANETARIUM

火星・赤い惑星への旅立ち

Vol.31 1999・冬



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

夜空のうさぎ、何みて跳ねる。



M79(国立天文台提供)

■オリオンの足もとに…

冬の南の空を華やかにかざる、オリオン座。その足もとに、6つの星が横になったHの形に並んでいる。うさぎ座だ。3等星以下の暗い星ばかりだが、一度見つけてしまうと、すぐ覚えられるはずだ。

ギリシャ神話は伝わっていないが、かなり古くからある星座であることは間違いない。おそらく獵師オリオンの獲物として描かれたのだろう。

ちなみに昔の中国ではこの星の並びを、うさなわちトイレと考えたそうだ。

■真っ赤な星はうさぎの目？

このうさぎの目のあたりに、R星という変

光星がある。427日周期で、5.5等星から11.7等星まで明るさをかえるため、一番明るい時でも肉眼で見つけるのはむずかしい。

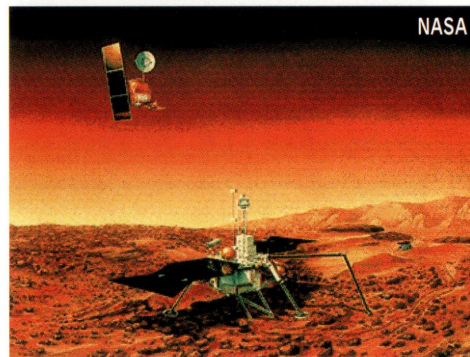
このR星は、別名クリムソン・スター（深紅色の星）という。真っ赤な色をしていて、初めてこの星を観測したイギリスのハインドは「血のように赤い」と言っている。

クリムソン・スターが次に明るくなるのは99年3月22日ごろ。ちょうど宵の南の空に輝いているので、双眼鏡や望遠鏡でその赤さを確かめてみてはどうだろうか。

うさぎ座にはほかにも、M79という球状星団がある。残念ながら望遠鏡でもあまり華やかには見えないが、4万光年彼方に輝く、星の大集団である。

1999年は火星に注目！

1999年5月2日、火星が2年2か月ぶりに地球に接近。このチャンスをねらって、いろいろな探査機が火星に向かおうとしている。さあ、今年は火星に注目だ。



NASA

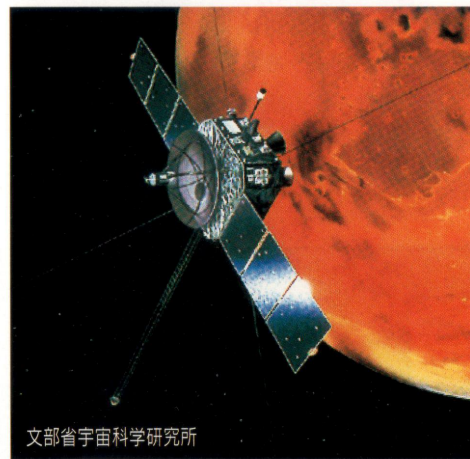
■マーズ・サーベイヤー98計画

まずはアメリカのマーズ・サーベイヤー98計画を紹介しよう。

この計画は、オービター（軌道船）とランダー（着陸船）の2つがペアになって火星を調べるといったものだ。ランダーは火星の南極あたりに着陸し、火星の土を調べる。火星は昔、もっとあたたかくて水も流れていたと言われていた。それがなぜ冷たくなったのか、そして水はどこに行ったのか、そんなナゾももうすぐ解けるかもしれない。

オービターは火星のまわりを回りながら、ランダーと地球との間のやりとりを助ける。その後は火星の気象衛星となって、火星の変化を見守り続ける。

計画では2つの探査機は98年末から99年の始めにかけて打ち上げられ、オービターは99年の9月に、ランダーは12月に火星につく。成功を祈りたい。



文部省宇宙科学研究所

■日本の『のぞみ』も火星へ

98年の7月に打ち上げられた日本の『のぞみ』も火星を調べる予定だ。

方位磁針がいつも北をさすことから分かるように、地球は大きな磁石になっている。それでは地球によく似た火星はどうなの？ というと、実はまだよく調べられていない。

『のぞみ』は火星のまわりを回りながら、火星の磁石の強さやオーロラなど、他の国の探査機があまり調べてこなかったことを調べようとしている探査機だ。

『のぞみ』は98年12月に火星へ向かう軌道に入り、99年9月に火星をまわり始める予定。こちらも注目だ。

MARS

RETURN TO THE RED PLANET

火星・赤い惑星への旅立ち

■ここでしか見られない、アメリカのプラネタリウムショー。

高飾区郷土と天文の博物館では、海外のプラネタリウム番組を積極的に紹介しています。その第4弾となるこの作品は、世界最先端のプラネタリウム・カーネギー科学館で制作されたものです。CGを駆使した迫力ある映像と、ダイナミックなサウンド。日本のプラネタリウムとはひと味ちがうアメリカのプラネタリウムショーをお楽しみください。